

解題

水俣病研究会（1969年、昭和44年～代表：富樫貞夫）は、チッソを被告とする第一次訴訟において被害者・弁護団を支援する目的で結成されました。現在も水俣病事件史の解明を目指し、定期的に研究会を開いています。

本資料群は当初、裁判での主張の論拠と裏付けを提示するために収集されました。その後、水俣病事件史の総体の把握と詳細究明に向けた機運が同会に生じ、患者・被害者、支援者、行政、チッソ、漁協等が作成した多種多様な資料が追加収集されることになりました。そして20数年の資料収集と編纂作業の結果、1968年までの重要資料を収めた『水俣病事件資料集 1926-1968 上・下』が1996年に出版されるに至り、事件史理解への道が次世代へとつながったのです。

推定総数3万点の膨大な本資料群は、『資料集』に収められた厳選資料はもとより、収録されなかった多くの資料と1969年以降の資料を含みます（1910～2018年）。いずれの資料も、チッソ水俣工場の操業とメチル水銀の排出に端を発し、現在そして未来へと続く、長く複雑な事件の各場面について生々しく示しています。

今後の目録&資料公開方針

熊本文書館は2018年度に水俣病研究会より旧蔵資料の寄贈を受け、同会と話し合いながら目録と資料公開を進めています。資料総数が数万点にのぼることから、全目録公開には数年を要する見込みです。準備ができた目録から順に公開し、資料を利用に供します。目録は同会作成済の内容をもとに文書館担当者が整え、個人情報やプライバシーにかかわる事項を削除、黒塗り（●●）しています。作成にあたっては充分注意を払ったつもりですが、不都合な点等がございましたら以下にご連絡いただければ幸いに存じます。

※ 電話 096-342-3951、FAX 096-342-3952、メール archives@jimu.kumamoto-u.ac.jp

目録はテーマ（中分類）毎に整理・公開いたします。毎年9月末と3月末頃、「収蔵資料」ページに新たな目録を追加する予定です。テーマ（中分類）は、水俣病研究会の資料整理担当者・阿南満昭氏の分類によるもので、氏にはテーマ（中分類）の概要執筆や目録整形全般にご助力頂いております。なお、水俣病研究会における資料整理作業推進と文書館への資料寄贈は、慶田科研（基盤研究A：水俣病事件の記憶術と（脱）アーカイヴ構築—未来の人文社会科学的総合研究に向けて、2016-2020年、研究代表者：慶田勝彦、研究課題/領域番号16H01970）の協力により実現しています。

長期にわたる作業が再び始まるわけですが、事件自体が訴訟はもちろんのこと多面的な形で続いており、多くの人々が水俣病事件・問題に関わり続けています。同時に原資料も生成され続けており、水俣病に関する資料整理にまだまだ終わりはありません。資料理解によるレファレンスの充実と目録・解説のウェブ公開を通して、より多くの人々に水俣病事件の過程で生まれた資料にアクセスして頂き、事件史理解と水俣病事件の現在を知ってもらうことに少しでも貢献できればと願っています。

(2019.3.28 文書館担当・香室)